

令和2年度 府立園部高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)( 計画段階 ・ 実施段階 )

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果(○)と課題(▼)	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>【教育方針】 ※真理を求め正義を愛する心身の健全な人となること (健全) ※進取敢為の性と明朗闊達な風とをもつ人になること (明朗) ※敬愛と誠実の心をもって社会に生きる人となること (誠実)</p> <p>【教育目標】 Global&amp;Aware (世界へ、思いやりをもって) 『自主的・主体的に物事を考え、自らの意見が言える生徒、人とコミュニケーションがとれる生徒の育成』</p> <p>【教育指導の重点】 1 中高一貫教育の充実 2 特色ある学校づくりの推進 3 学力の充実と進路希望の実現 4 生徒指導の徹底 5 人権教育及び道徳教育の推進 6 国際理解教育の推進 7 教育相談及び特別支援教育の推進</p>	<p>【成果】 ○グローバルネットワーク京都をはじめ様々なコンテストで優秀な成績を収めることができた。 ○中高一貫コースでは、深い学びに結びつけるために総合的な探究の時間(クリエーション)のカリキュラムを再構築した。 ○生徒の主体性、コミュニケーション能力を養うため、今年度も英語によるレシテーション・スピーチコンテストやポスターセッション等での課題発表を充実することができた。 ○学科改変に伴い、京都国際科で培った成果をカリキュラムに反映することに努めた。 ○新たな海外交流校も出来、姉妹校・連携校との連携強化が進んでいる。 ○立藩400年事業を地域とともに盛り上げることに貢献した。</p> <p>【課題】 ▼ICT環境の充実を考えているが、整備まで至っていない。 ▼中学生向けのポスター、動画を作成し、広報活動の充実を図ったが、志願者数に結び付いていない。</p>	<p>【育てたい生徒像】 『自主的・主体的に物事を考え、自らの意見が言える生徒、人の気持ちにたって、人に接することができる生徒の育成』</p> <p>1 充実した学校生活 (1) 面白い授業及び学習意欲・学力の向上へ向けた取組の改善と検証 (2) 損得ではなく善悪で判断できる生徒を育てる指導の推進 (3) 健康・安全の保持と自己管理できる力の育成と様々な生徒のニーズに対応できる居場所の確保 (4) 安心・安全を感じられるホームルームと信頼できる担任・教職員との関係の構築</p> <p>2 信頼・安心できる学校 (1) 積極的な情報公開・情報交換により正確な情報を共有し、連携して指導できる体制の強化 (2) 双方相手の顔を見える連携の推進</p> <p>3 学校の様子と方向性の発信 (1) 様々な学校教育活動がみえる広報の展開 (2) 学校の方向性が見える広報の展開</p> <p>4 やりがいのある職場 (1) お互い助け合える体制の強化 (2) 夢が語れる、連帯感のある、譲り合える職場づくり</p> <p>5 その他 (1) 情報管理の徹底 (2) 魅力ある学校をアピールして、志願者数の増加を目指す</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題 次年度に向けての改善点
組織・運営	中高一貫教育の充実	高等学校と附属中学校がさらに連携を深め、6年間を通した指導計画及び指導体制を再構築するとともに、附属中学校のさらなる志願者数増を目指す。	B	職員会議は昨年まで、中学教職員と高校教職員が別で会議を行い、年間数回の合同職員会議であったが、今年度はすべての職員会議を中学教職員と高校教職員が全員参加する職員会議とした。故に、連携がさらに深まり、「チーム園部」として学校運営を実施することができた。附属中学校の志願者数増につなげることはできなかった。 生徒募集については94名で昨年より5名減であった。5月に計画していた学校説明会がコロナ禍のため中止をせざるを得なくなり、私学と比べ動き出しが遅れた。広報用のチラシを積極的に作成することができなかった。 コロナ禍のため、海外からの学校訪問及び海外へ行つての学校訪問を実施することができなかった。しかし、国際委員を中心に国際理解教育を推進した。今後、ICTの整備を早急にすすめ、リモートによる交流を実現できるようにしていきたい。
	特色ある学校づくりの推進	パンフレット、ポスター、ホームページ、For the FUTURE、学校説明会等をさらに充実させ、園部高校の魅力を大いに発信する。	B	
	国際理解教育の推進	国際交流企画を最大限実現させるとともに姉妹校協定等による海外交流校との関係強化を推進する。	B	
学習支援	基本的学習習慣の定着	基本的学習習慣を身につかせ、家庭学習・自主学習の学習習慣の定着を図る。	B	4月下旬から5月末まで新型コロナウイルス感染拡大防止から臨時休業を余儀なくされ、年度はじめの学習習慣確立の大切な時に学習の仕方についてしっかり身につけさせることができなかった。本校では、Youtubeを活用し、本校オリジナルの授業動画をアップすることで家庭学習・自主学習の定着を図った。 「気づこう！園部高校の力！- 生徒の『深い学び』を生み出す授業と評価 -」と題して教職員研修を行い、各教科でさらに主体的に対話的で深い学びを実現させる教育活動をすすめることができた。 今年新たに、総合的な探究の時間として、Global Thinking 及び Creation と題して取組を行い、それを本校の実践発表会で報告した。一定成果を得ることができた。 スマートスクール事業1年目の年として、各HR教室にプロジェクトが設置された。コロナ禍のため、式典等において生徒全員を一カ所に集めることができないことから各教室でオンラインによる式典を行った。本校の教室では電波状況が悪く、HR教室を移動しなければいけない状況があった。GIGA構想に基づく無線LAN、アクセスポイントの整備が急務である。Classiは会議運営、アンケート機能として一定活用できた。Youtube授業動画も一定活用することができた。
	言語活動の充実及びコミュニケーション能力の向上	学科・コースの特色に即したパフォーマンス課題を設定し、言語活動を充実させるとともにコミュニケーション能力の向上を図る。	B	
	新学習指導要領に即した授業改善	グローバルシンキングやクリエーション等総合的な探究の時間をはじめとする探究活動の授業実践を行う。	B	
	ICT教育の充実	スマートスクール事業を推し進めるとともに、ClassiやYoutube等を活用したICT教育の充実を図る。	B	
生徒支援	生徒指導の徹底	問題事象や問題行動の未然防止と早期発見・早期対処ができるよう教職員の指導体制づくりを進め、適切な指導を行う。	B	教職員の指導体制は整備されているが、突発的な事象においてその体制が機能していない。危機管理を常に意識し、形だけの体制ではなく、動ける体制にしていこう。 コロナ禍のため、学校祭(文化の部・体育の部)の中止を検討したが、生徒会執行部を中心に生徒達がコロナ禍の中でいかにして学校祭を実施できるか立案・企画・運営を行った。生徒の自主性が大いに発揮された。 外部との関係機関連携を密に行い、生徒・家庭にあった支援をすることができた。
	特別活動・部活動のさらなる活性化 自主活動の充実	生徒会活動・部活動をより活性化させ、生徒の自主性や協調性を育む。また、学年に関係なく、豊かな人間関係を形成できるよう学校行事を工夫し、企画・運営する。	A	
	教育相談・特別支援教育の推進	校内における分掌だけでなく、外部の関係機関と連携を密にし、生徒の状況や特性を把握し、適切かつ具体的な支援をすすめる。	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題 次年度に向けての改善点
進路支援	学科・コースの特色を踏まえ、個に応じた適切な進路支援	学年ごとの到達目標、育てたい力を全教員で共有し、個に応じた適切な進路支援を行う。	A	4 年度初めに進路指導推進会議において、学年ごとの到達目標や育てたい力を共有し、昨年までの課題を確認できた。今後は、常にこの目標を意識し、より良い提案や意見を活かせるようにしたい。 進路行事については、コロナ禍のために、延期や中止とせざるを得ない状況にあった。その中でもより重要度の高い説明会や模擬授業に関しては、感染防止対策を講じたり、オンラインによる講義などを実施したりするなど工夫して実施することができた。生徒の意識を高め、主体的な行動を一時的には促すことができていたが、継続的に行動できるようにするためには、さらなる進路HRの検討や工夫が必要である。 新型コロナウイルス感染拡大により、今年度から変わる大学入試制度や共通テストの情報が7月でも確定せず、生徒へも確実な情報を伝えることができず、苦勞した。が、3年学年団や口丹通学園の進路部長と連携をとり、対応を相談しながら実施できた。生徒たちも落ち着いて情報収集し、入試準備や対策を早めにとり、進路希望を実現した。就職において、心配されていた求人数の減少もあまり影響なく、応募者全員内定を得ることができた。
	生徒の主体的な行動を促す進路支援	進路HRや進路に関わる行事を通して、生徒が自らの進路を主体的に選択し、考え、行動できるよう支援する。	B	
	新入試制度に向けた進路支援	新入試制度や新学習指導要領に関わる最新の情報収集を行い、生徒・保護者へ迅速に発信する。	B	
人権教育	人権教育の推進	人権に関する昨今の法整備及び本校の実態を踏まえ、人権教育の更なる推進を図る。	B	4 今まで視聴覚教室等を利用して学年全体の人権学習を実施してきたが、コロナ禍のため、会場を体育館に変更する等して、人権学習（講演）を実現することができた。生徒達は、講演者の生の声を聴くことで、現在の状況を知り、人権意識の向上に役立った。 人権学習だけでなく、様々な教育活動において人権意識の向上、人権感覚を磨いてきた。今後も様々な取組をすすめ、さらなる充実を図る。
	人権意識の高揚	すべての教育活動を通して、人権を尊重する心を育む。	B	
健康・安全教育	健康教育の充実	本校生徒の健康課題（体の健康と心の健康）に応じた健康教育を充実させる。	B	4 新型コロナウイルス感染拡大防止のため十分な健康学習および講演会を実施できなかった。 生徒が相談しやすい環境、安心して学校生活を送ることができる環境をさらに高めていく。
	安心・安全に過ごせる学校作り	生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう環境づくり、支援を行う。	B	
図書館活用	生徒・教師が活用しやすい環境設定	授業・調べ学習・学校行事等で活用できる資料の収集と提供。図書活用を促す図書資料の紹介広報に努める。	B	4 課題研究に利用できるよう、新書や地域資料の充実を図り、本棚に新しいコーナーを設けた。コロナ禍でもできる図書委員会の活動を実施した。コロナ禍のため、生徒・教職員のみで学校祭（文化の部）の様子をビデオに撮り、各学年の保護者に別日で放映した。当日、参観していただくことができなかったため、好評であった。コロナの影響で次年度も団体鑑賞が実施できるか課題が残る。
情報・文書管理	文書業務・成績処理の効率化	校務システムを有効利用する等文書業務・成績処理の効率化を図る。	B	4 校務システムにおいて、システムトラブルがあり、システム上の問題より業者に改善を求めた。システムのわかりにくさから複雑な確認業務が求められ、効率化が図れていない。 文書管理、個人情報の扱いについて、随時注意喚起を行っている。今後も引き続き教職員の意識向上に向け研修を深める。ICTの利活用について、環境の充実だけでなく、効果的な利用についての研修を進める。
	個人情報の適切な管理	個人情報に配慮した適切な情報管理を行う。	B	
	情報モラルに関する指導の充実	情報モラルに関する指導を充実させる。	B	
家庭・地域連携	家庭や地域社会との連携の強化	家庭・地域社会との適切な連携に努めるとともに、小高連携・中高連携・高大連携の充実を図る。	B	4 家庭連携はもとより、地域社会・関係機関との連携を充実させることができた。今までは、対面による小高連携、高大連携を推進してきたが、コロナ禍のためオンラインを活用した連携を行った。オンラインによる連携を実現できたことにより、移動時間、移動経費の削減になり、今後の取組に大いに参考となった。
学習環境安全管理	安心・安全で充実した教育活動のための施設設備の充実	校舎や設備の安全を確保し、生徒の学習環境の向上に向けた施設設備の充実を図る。	B	4 コロナ感染対策として、消毒用アルコールの調達や感染防止のついででの作成などスムーズに行うことができた。また校舎の内壁工事、スマートスクール事業に伴うホームルーム教室のプロジェクト整備、ギガスクール構想に基づくwifi整備を進めている。今後も学習環境向上に向けた施設設備の充実を図っていく。
学校評価委員会による評価	新型コロナウイルス感染症への対応が必要な中、工夫をして教育活動に取り組んでいることが評価できる。生徒の様子を見ても、落ち着いて学校生活を送っていることがよくわかる。学校の尽力を感じる。			
次年度に向けた改善の方向性	各分掌から出された課題について、長期的。中期的な検証に加え、短期的な検証を積み重ね、学校評議員からの意見も参考にして、改善を図っていく。			

評価数値の見方(後期)	
A	目標が十分達成され、効果を上げている。
B	目標が計画通り実施され、一定の効果が上がっている。
C	計画通り実施できているとは言えず、あまり効果が上がっていない。
D	実施がかなり不十分である。

評価数値の見方(総合評価)	
4	全項目がB以上である。
3	2項目がB以上である。
2	1項目がB以上である。
1	B以上である項目がない。